

# 令和7年度 学校図書館活用推進事業への取組

新潟市立曾野木小学校

## 1 取組の目的

学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能をより一層高める。それにより、子どもが進んで図書や情報を活用したり読書に親しんだりする力を育てる。

## 2 本校の実態

・ 読書を好きな子が多く、年間平均読書数は147.6冊である。しかし、休み時間は体を動かして遊ぶ子が多いためか、授業での貸し出し以外に図書館を利用する子が少ない。

→本を楽しくたくさん手に取ってもらえるような手立てを委員会等で考え、実践。

・ 図書館年間活用計画をもとに、司書から担任に声を掛け、単元の学習に必要な本を準備することができている。学年の教室の廊下にブックトラックを置き、児童が使いやすくなっている。しかし、国語の教科書が変わり、活用計画を見直さなければならない。

→市小研図書館部の資料を基に見直す。それに沿って、司書から声を掛け、本を利用した授業を行う。

・ 調べ学習に関しては、タブレットの活用が増えることにより、授業が変わってきている。いろいろなソースをうまく使えるように（必要なときに、選べるように）することや、引用や著作権についての意識を高めていくことが必要である。

→学年に応じて、調べ学習を進めるときに、「調べ学習の進め方」や引用、著作権についての指導を意識して行う。

## 3 取り組みの内容

### (1) 図書館全体計画、図書館年間活用計画の見直し

### (2) 読書センターとしての取組

#### ① 読書週間（年2回）

- ・ 読書ビンゴ、本の題名当てクイズ、くじ引き（ポイント制）
- ・ 図書委員会による本の朗読とクイズ
- ・ 先生方のおすすめの本

#### ② 多読の奨励・おすすめの本

- ・ 100冊、200冊達成ごとに、「おすすめの本」や「本のクイズ」を書いてもらい、図書室前廊下に掲示。
- ・ おすすめの本は、全部読破すると賞状を渡したり、お昼の放送や図書館便りで表彰したりする。

#### ③ ボランティアによる読み聞かせ

朝学習の時間に読み聞かせの会「ぼけっと」の方より読み聞かせを行ってもらう。地域コーディネーターの協力を得て、年間16回行っている。

### (3) 学習センターとしての取組

① 学校図書館活用年間計画をもとに司書より担任に声を掛けて相談し、オレンジボックスや学級貸し出し等、単元に必要な本の準備をし、各学年の廊下のブックトラックに置く。

② 本を利用した学習の推進、司書と担任とのTT授業



<100冊達成者を紹介するの掲示版>



<読書週間イベント題名当てクイズ>



<おすすめの本カード>



<ボランティアによる読み聞かせ>

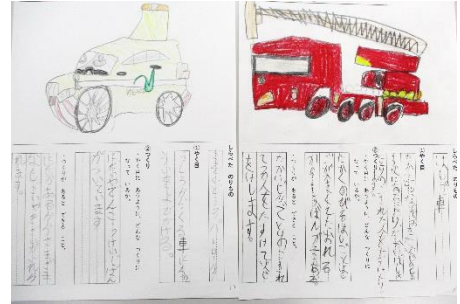


<単元ごとに準備されているブックトラック>

## <各学年の実践>

### 1 学年 教科 (国語) 単元名 (のりものカードをつくろう)

国語「いろいろなふね」の学習で、乗り物には「やく目」とそのための「つくり」があることを学んだ。その後、自分で選んだのりものについて、本で調べ「やくめ」と「つくり・できること」が書いてある文章を見つけ、カードにまとめることができた。また、自分のカードを友達に紹介した。



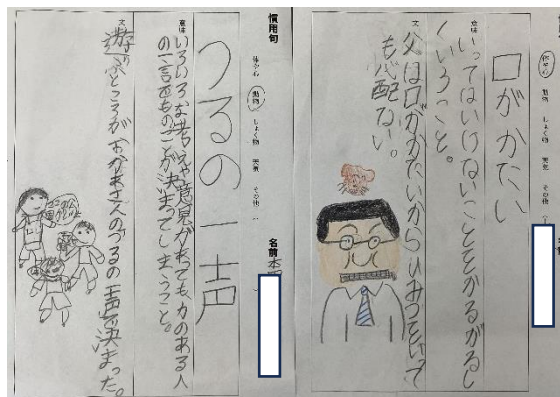
### 2 学年 教科 (国語) 単元名 (本の中の友だち)

国語「本の中のともだち」の学習で、図書館の本を使った。友達になりたい登場人物を選んでカードにまとめ、クイズ形式で紹介し合った。活動後、紹介された本に興味をもち、借りる姿が見られ、読書意欲が高まっていた。



### 3 学年 教科 (国語) 単元名 (慣用句を使おう)

慣用句について知り、どのようなものがあるか本で調べた後、一人一枚慣用句カードを書いて学級の慣用句集を作る活動を行った。意味だけでなく、何に関係する慣用句か、どんな風に使われるのかを調べたり文を考えたりしてカードを書いた。冊子とともにタブレットでも紹介し合えるようにして、いろいろな慣用句に触れることができた。



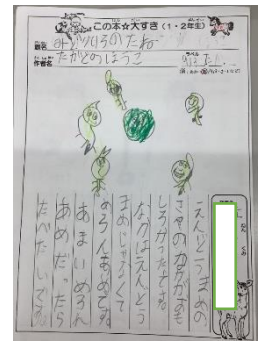
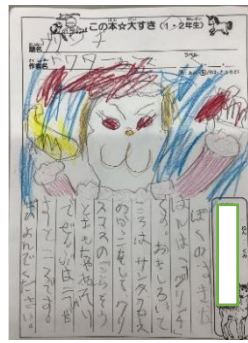


特別支援学級 教科（国語）単元名（おすすめの本を紹介しよう）

学習参観にて、読書感想文を発表する授業を行った。1年生2名、4年生1名で行い、本の感想をどうしたらうまく伝えられるかを考えて発表していた。

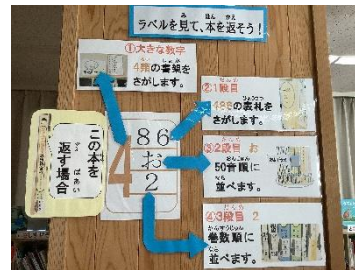
どうしたら相手に本の内容が伝わるかを考え、「はきはきと話す」「大きな声」「姿勢よく」などの意見を出した。

10分間練習タイムを取り、何度も自分の書いた読書感想文を読んだ。まっすぐ見ることや声の大きさに気を付けていた。

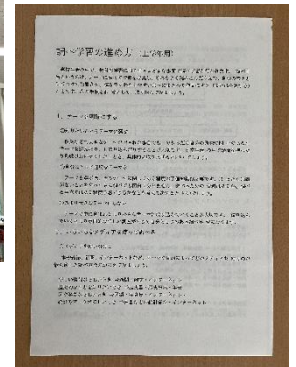


(4) 情報センターとしての取組

- ① オリエンテーションの工夫
- ② 「調べ学習の進め方」の利用
- ③ 「新潟市情報活用能力体系表」の利用  
(特に引用・出典・著作権についての指導・「出典カード」の利用)



<オリエンテーション用掲示>



<調べ学習の進め方>

国語の教科書（「新しい国語」東京書籍）の「じょうほうのとびら」をもとに、各学年で調べ学習を行う場合に指導を行う。また、「調べ学習の進め方」や掲示、「出典カード」も利用する。

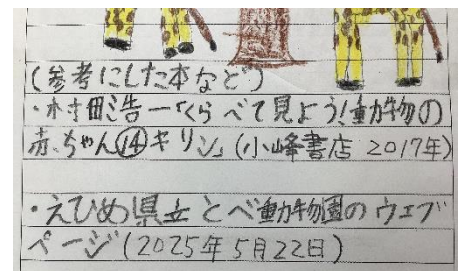
【各学年で取り上げられている「じょうほうのとびら」】

2年	4年	6年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図鑑などの本で調べること</li> <li>・ もくじを使って調べること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「引用」とそのルールについて</li> <li>・ 出典について正しく書くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を精査して、適切に使うこと</li> <li>・ 情報の信頼性と著作権について</li> </ul>

【出典カード】

本の出典  
書名  
著者・作者・編集者  
出版年  
発行年

Webサイトの出典  
サイト名  
作った人  
URL URLとサイトを見た日の二つがあればよいそうです。  
サイトを見た日



<子どもが書いた出典カード>

- ④ 新聞コーナーの設置  
読売子供新聞（毎週木曜日）と前日の新潟日報を新聞架に展示している。



<新聞コーナー>

- ⑤ リーディングトラッカー作り(読書のバリアフリーへの取組)

夏休みの図書館開館日に「リーディングトラッカーを作ろう」の活動を行った。

図書室には現在16枚あり、低学年を中心に、使い方を説明。集中できない時や、文字が多い本を読む時、使用している。



<作ったリーディングトラッカー>



<希望した児童が協力して作成>

### (5)3校連携(曾野木中, 東曾野木小, 曾野木小)の取組

#### ① 小学校「この本大好き」の交換

12月に、代表25人の子どもの「この本大好き」のカラーコピーを東曾野木小学校に送付した。

1月に、東曾野木小学校の児童が書いた「この本大好き」を図書室に掲示する。

#### ② 中学校「お薦めの本の手作りポップ」を小学校で掲示

曾野木中学校の1・2年生が昨年度の国語の時間に作成した本の紹介POP(全部で模造紙7枚)を図書室前廊下に掲示した。

曾野木小・東曾野木小の高学年が書いた「この本大好き」をそれぞれ4枚程度、曾野木中学校に送り、図書室の廊下に掲示してもらう。

#### ③ 図書館便りの交換

夏と秋の2回の三校司書合同研修会で、図書館便りの交換を行った。お互い参考にしている。

#### ④ 曾野木の郷土資料リストの作成・共有

現在、作成中で、年度末までには完成の予定である。

#### ⑤ コラボ給食

『どこからきたの?おべんとう』より、あつやきたまご

『きつねのホイティ』より、キーマカレー

『サラダでげんき』より、りっちゃんのサラダ

『バムとケロのそらのたび』より、ホットドッグ

『小さなスプーンおばさん』より、マカロニスープ

お昼の放送で、図書委員がメニューの本の紹介やクイズをした。2年生の担任から「トマトが嫌いな子も、その日はみんな食べてくれました」との報告があったり、「コラボ給食を楽しみにしてくれたようで、残量がすごく少なかったです。」と栄養士から喜びの声が聞かれたりした。

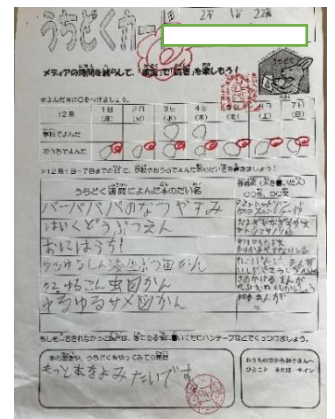
#### ⑥生活チェック週間の時に、「うちどく」を実施(東曾野木小学校と一緒に)



<この本大好き>



<中学生が作成お薦めの本の手作りポップ>



<うちどくカード>

### 3 取組を振り返って(成果と課題)

- 司書と各学年の担任が協働し活動を進めることができた。司書から昨年までの実績をもとに図書を利用するであろう単元になるころに声を掛けてもらい、図書の利用がスムーズに行えた。
- 「新潟市情報活用能力体系表」を職員に示し、国語の学習と結び付けて引用や著作権について意識して学習に取り組みさせることができた。
- 「おすすめの本」を示すことで意欲的に読破する様子が見られた。また、読書週間の図書委員会の活動などで図書館に来る子どもたちが増え、本を楽しむ様子が見られた。
- 中学校区3校で、前回の推進事業の時から続いている取組も含めて、協力して活動することができた。
- 子どもが、今後ますますウェブサイトの情報を活用することが増える中で、大人向けに書かれている情報の読み取りの難しさやフェイク情報が増えていること、著作権や出典に気を付けることなど、注意点を伝えていくことが必要である。
- 調べ学習の際、「ほんぽーと」に資料の貸出を申し込んでいるが、他校と利用時期が重なることで、セット資料であるオレンジBOXを借りられず、公共図書館の資料を個別に借りる対応になることがあった。今後は、使用時期をできる範囲で計画的に調整し、オレンジBOXを確実に活用できるようにしたい。